

14 りんご

(1) 生産目標

品種・系統	10a当たり収量	精果率	階級割合	糖度
つがる	3,200kg	80%	2L以上	14度以上
ふじ	3,200kg	80%	2L以上	15度以上

(2) 経営指標及び労働時間

経営指標(ふじ、10a 当たり)

項目	ふじ
① 出荷量(kg)	2,560
② 販売単価(円)	531
③ 粗収益(円)	1,359,360

※ 令和2年～令和5年の平均単価

ア 販売単価の推移

(単位：kg 当たり円)

年次	26	27	28	29	30	R1	R2	R3	R4	R5
単価	319	417	434	447	431	441	505	542	531	547

(H30 まで：全農山口扱い、R1～：J A 山口県扱い)

イ 経営費の内訳

(円/10a)

費用	金額	備考
肥料費	52,725	
農業薬剤費	51,267	
※ その他経費は、販売状況等によって変動するため試算していない		

ウ 投下労働時間(10a 当たり)

(ア) 月別労働時間

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
16.0	2.4	1.0	14.1	39.3	13.6	12.8	2.8	40.6	42.0	4.0	29.1	217.7

(イ) 作業別労働時間

整枝 せん定	施肥	土壌 改良	受粉	摘果	防除	新梢 管理	収穫 販売	その他	計
28.2	4.0	15.0	12.7	35.7	6.4	18.6	76.2	20.9	217.7

(3) りんご重点推進事項

事 項	推 進 内 容
1 樹勢維持のための土づくり	<p>1 排水不良園では、暗渠及び明渠の整備により排水をよくし、根の健全化を図る。</p> <p>(1) 梅雨と秋雨の二つの雨期の土壌中の過剰水を速やかに園外に排出させるため、暗渠を設置する。</p> <p>深さ70～100cm、巾30cmで5～7m間隔が望ましい。</p> <p>埋設材として、モミガラ、砂利等があげられる。</p> <p>(2) 表面水の停滞する園では、園内の明渠の整備により速やかに園外へ排出できるようにする。</p> <p>(3) 深耕も排水を考えて行い、穴や溝に水がたまることのないようにする。</p> <p>2 有機物を補給して、土壌を膨軟にし、細根を増加させる。</p> <p>(1) 深耕時に有機物を補給してやる。材料は山草や稲ワラ堆肥がよいが、稲ワラはよく腐らせるか切断したものを、堆肥も完熟したものを使う。</p> <p>施用量は10a当り、山草で2t、稲ワラ1.5t、堆肥で1tとする。</p> <p>(2) バーク堆肥、チップ粕等をつかう場合はよく腐熟させる必要があるので地表に散布しておき秋期にすき込む。</p>
2 高品質果実生産に適した樹形改善	<p>1 若木園 (6～14年)</p> <p>(1) 主枝候補枝4本を選定し、樹形は主幹形から変則主幹形へと移行する。</p> <p>(2) 主枝候補枝以外の枝は、結実を早めるためできるだけ着果させ、主枝候補枝の邪魔になりしだい側枝を減らし、最後に除去する。</p> <p>2 成木前期 (15～20年)</p> <p>(1) 最後に残る主枝2本に、亜主枝(主幹から1.5～2.0m離れた位置の側枝を左右にとる)の確立をはかり、結果母枝を多くつくる。</p> <p>(2) 樹形は変則主幹形から遅延開心形とする。</p> <p>(3) 主枝が果実や枝の重みで下垂しはじめたら、基部から(2.0～2.5m付近)切り返す。この場合2～3年前より切り返し付近に、できるだけ多くの側枝を準備しておく、(亜主枝についても同じ要領で行う。)</p> <p>3 成木後期 (30～50年)</p> <p>(1) 樹形の維持結実部位の拡大、個々の枝の充実をはかる。</p> <p>(2) 結果母枝は7～8年で更新し、結果母枝群は12～13年で更新する。</p> <p>(3) 樹冠間隔の保持</p> <p>隣接する樹の間隔は夏期でも1.0m位の保持が必要。したがって、樹冠が接すると予想される2～3年前から枝の切り下げを行う。</p>

事 項	推 進 内 容																
3 夏枝管理の徹底	<p>1 徒長枝の処理 主枝の背から出た徒長枝は、摘果がすみしだいできるだけ早く行う。その後、1ヵ月あまりで第2回目の徒長枝切りを行い日当りを良くする。</p> <p>2 支柱立て、枝吊り 枝・果実の重みで結果母枝が下垂するので、内部まで日光が良く入るよう支柱立てや枝吊りを行う。</p>																
4 適正着果の励行	<p>1 高品質果実生産のため、粗摘果は、中心果を残し、30日以内に終える。</p> <p>2 仕上げ摘果は満開後60日以内に終える。着果量は、つがるは3.5頂芽に1果、ふじは4頂芽に1果を基準とする。</p> <p>仕上げ摘果の品種別めやす（長野県）</p> <table border="1" data-bbox="483 786 1107 1102"> <thead> <tr> <th>品種名</th> <th>摘果基準（各頂芽数に1果）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ふじ</td> <td>4～5</td> </tr> <tr> <td>つがる</td> <td>3～4</td> </tr> <tr> <td>千秋</td> <td>4～5</td> </tr> <tr> <td>王林</td> <td>3～4</td> </tr> <tr> <td>紅玉</td> <td>3～4</td> </tr> <tr> <td>ジョナゴールド</td> <td>3～4</td> </tr> <tr> <td>陽光</td> <td>4～5</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 紋羽病対策にも有効。</p>	品種名	摘果基準（各頂芽数に1果）	ふじ	4～5	つがる	3～4	千秋	4～5	王林	3～4	紅玉	3～4	ジョナゴールド	3～4	陽光	4～5
品種名	摘果基準（各頂芽数に1果）																
ふじ	4～5																
つがる	3～4																
千秋	4～5																
王林	3～4																
紅玉	3～4																
ジョナゴールド	3～4																
陽光	4～5																
5 着色管理の徹底	<p>1 太陽光線の効率的利用による良質果の生産 ふじは比較的着色しにくいいため、果実全体に日光が当たるよう下記事項を励行する。</p> <p>(1) 徒長枝のせん除</p> <p>(2) 支柱立て、枝吊り</p> <p>(3) 葉つみ、玉まわし</p> <p>除袋後、直接果実に葉が接しているものは摘みとり、その後、着色60%位進んだ時、玉まわしを行い果実によく日光が当るようにする。</p>																
6 わい化栽培	<p>1 わい化栽培の利点と欠点</p> <p>(1) 木が小さいので栽培管理が容易で労働力が節減できる。</p> <p>(2) 結果年齢に達するのがはやく、早期多収が可能。</p> <p>(3) 枝が徒長しにくいいため、品質のよい果実の生産がしやすい。</p> <p>(4) 密植となるため、苗木、支柱などの開園費が多くかかる。</p> <p>(5) 樹の寿命は短い。</p> <p>(6) 湿害、干害、凍害などに弱く、土壌改良、排水対策が必要となる。</p>																

2 適地

わい性台木を用いたリンゴ樹は、マルバカイドウ台木樹に比べて根群が浅く、貧弱のため、有効土層が 50cm 以上で排水の良い土壤に適する。土壤やかん水施設を用いることが必要となる。

3 わい性台木の種類

表 リンゴの主なわい性台木と特性

台木名	育成選抜	樹勢	備考
M9	イーストモーニング [®] 試験場	わい性	早期結実性、繁殖力不良、根はぜい弱、支柱必要、肥よくな土に適する、果実の肥大促進効果大きい。
M26	〃	わい性	M9 よりややわい化効果おとる、早期結実性、繁殖力やや良、倒伏しやすく支柱必要
M27	〃	最わい性	M9 より小さい、早期結実性、繁殖力弱い、果実は小さくなりやすい
JM1	果樹試験場リ ンゴ支場	わい性	挿し木繁殖性良、リンゴワタムシ [®] 抵抗性、根部疫病抵抗性
JM2	果樹試験場リ ンゴ支場	半わい性	挿し木繁殖性良、リンゴワタムシ [®] 感受性、根部疫病抵抗性
JM5	果樹試験場リ ンゴ支場	最わい性	繁殖力やや良、リンゴワタムシ [®] 抵抗性、根部疫病抵抗性
JM7	果樹試験場リ ンゴ支場	わい性	挿し木繁殖性良、リンゴワタムシ [®] 抵抗性、根部疫病抵抗性、耐湿性良

注：リンゴワタムシ[®]は、リンゴの枝についてこぶをつくるアブラムシ。

疫病はリンゴの果実や根に感染する病害。

4 植え付け方法

台木の種類等	最終本数(本/10a)	計画密植本数(本/10a)
普通台(マルバ)	13本～15本 (8～8.5m×8～8.5m)	36本～62本 (4～5.5m×4～5m)
半わい性台(JM2等)	30本～50本 (5～6.5m×4～5m)	
わい性台(M9等)	100本～125本 (4m×2～2.5m)	

5 整枝・せん定

わい化効果の高いM9台木を用いた小型樹ではスレンダースピンドルブッシュ（細がた紡錘形）、M26台木などを用いたやや大型樹では、フリースピンドルブッシュとよばれる整枝法がある。

6 その他

冬季に温度変化が大きいと、幹部や台木部に凍害を受けやすいため、幼木では樹体温の変化を少なくすることを目的として、地上から1mほどの台木と幹部に白塗剤を塗る。必要に応じてかん水や排水対策を行うとともに、普通樹と比べ果実の成熟は早まるため、適期収穫に努める。

(引用・参考文献)

果樹栽培の基礎知識 熊代克巳 農文協

新版 果樹栽培の基礎知識 杉浦明 農文協

(4) りんご作業

月	旬	生育状況	作業名	作業の内容
12月～2月	下	休眠期	園内整備 整枝せん定 せん定枝の処分 春肥の施用	農道修理・集排水溝・防除施設の整備 主枝・亜主枝・側枝の確立、重なり枝をせん除し日当りを良くする。 多過ぎないように注意する。
3月	上 下	りん片脱落前	防風施設の整備 接木 晩霜害防止準備	防風樹(すぎ、ひのき、まき等)の植付け、防風樹の刈り込み、破風施設の整備 接木の適期、側枝、発育枝への一挙更新、無毒穂木の使用 燃焼物の準備、園内の敷草は除く、気象状況に注意する。
4月	中 下	5分咲	摘蕾 花粉採取 人工交配	主枝・亜主枝の先端は摘蕾する。 花蕾が風船状になった頃、中心花を残し、側蕾を摘蕾する。(樹勢の弱い株、花の多い株を優先) 必要量の2倍位採り乾燥状態で貯蔵する。 受粉は花弁が白みがかった頃からが効果的である。(中心花5分咲き)
5月	上 中 下	果実大豆大 落花後15日	追肥 摘果(第1回) 仕上摘果	幼木のみ行う。 落花と同時に始め、満開後30日以内に終わる。1果そう1果を目安として果実の発育がよく、果梗が長く太く、正しい形状の果実を残し、原則として中心果を残す。果梗の短い果実、葉数の少ない花そうに着果した果実、長果枝(昨年20cm以上伸びた枝)に着果した果実は摘む。樹勢が弱い樹から摘果を始める。 玉伸びの悪い果実を摘む。4～5果そうに1果の割合で残す。隔年結果を防止するため、満開後60日以内に実施する。
6月	上 下		排水対策 追肥 草刈 袋かけ 徒長枝のせん除	集排水溝を整備する。 幼木のみ行う。 満開後60日以内に終わるようにする。 主枝の背面から出た強い枝はせん除するが、8月まで数回に分けて実施する。除く量は葉の量で10%以下とする。

7 月	上 下	花芽分化期	草刈・敷草 かん水 支柱立て、枝吊り	草刈りは、梅雨末期、または梅雨明け直後に実施する。 土壌の乾燥が続く場合は、梅雨明け2週間目頃より始める。 日光が良く入るよう枝の配置をする。
8 月	上 下	早生種成熟	台風対策 かん水 着色管理 (除袋) 収穫・出荷 芽接	支柱の補強、枝の結束、豪雨にそなえ土壌侵蝕対策を行う。 早ばつがひどいときは、かん水を行う。 かん水を始めたら5～7日おきに同一カ所にかん水をする。10a当り1回の水量はタコツボかん水で10t、全面かん水では30tを標準とする。 つがるでは収穫開始の7～10日位前に外袋を除き、さらに、その後3～5日を経て中袋を除く。 早生種では特に収穫適期を逃さないようにする。 9月上旬にかけて行う。
9 月	上 中 下	中生種成熟	収穫・出荷 草刈 腹接 着色管理(除袋) 着色管理 (葉摘み、玉まわし)	代替は腹接によるものがよい。中・下旬が適期 ふじでは、収穫開始の25～30日位前に外袋を除き、さらに、3～5日経て中袋を除く。 除袋後3日目頃より直接果実に接している葉を摘み、その後陽光面の着色が進んだ段階で玉まわしを行い反対面の着色向上をはかる。
10 月	下	晩生種成熟	収穫・出荷	
11 月 ～ 12 月	下	落葉期 休眠期	苗木の植付 園内の清掃 元肥 拡大深耕 排水	落葉後から開始してよい。 落葉はかき集め、埋没等の処分を行い、園内病害虫の密度を下げる。 多肥にならぬよう注意する。11月中旬までに施用し、樹勢回復に努める。 排水を考えて行う。 有機物は乾燥・枯死したものを使用し、下層への石灰及び燐酸(ようりん)を併用する。 園内は暗渠、園の周囲は明渠排水を行う。

(5) 施肥基準

ア ふじ（わい性台成木）10a 当たり施用量

施肥時期	時期別割合 (%)			成分量			施肥上の注意
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
元 肥 (10月)	70	100	80	14.0	16.0	8.8	(1) 成木園10a当たり収量3,200kgの園を基準とする。 (2) わい化栽培は土づくりに特に力を入れ、良質堆肥の施用に努める。 (3) 土壌改良材は10アール当り石灰類100～120kg、ようりん40～60kgを使用する。 (4) 施肥基準は土壌の肥沃度により増減する。
春 肥 (2～3月)	30	—	20	6.0	—	2.2	
計	100	100	100	20.0	16.0	11.0	

イ ふじ（わい性台幼木）10a 当たり樹齢別施用成分量(kg)

樹齢	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥上の注意
1年生	5	3	2	
3年生	10	8	5	
5年生	16	14	11	

ウ ふじ（マルバ台成木）10a 当たり施用量

施肥時期	時期別割合 (%)			成分量			施肥上の注意
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
元 肥 (11月)	70	100	80	12.6	15.0	8.8	(1) 成木園10a当たり収量3,200kgの園を基準とする。 (2) 土壌改良剤は10a当たり石灰類100～120kg、ようりん40～60kgを施用する。 (3) 施肥基準は土壌の肥沃度により増減する。
春 肥 (2～3月)	30	—	20	5.4	—	2.0	
計	100	100	100	18.0	15.0	10.8	

エ ふじ（マルバ台幼木）10a 当たり樹齢別施用成分量(kg)

樹齢	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥上の注意
1年生	3	2	1	
3年生	4	3	3	
5年生	6	5	4	
8年生	13	10	7	

(6) りんご品種特性表

品種・系統名	原産地及び来歴	果実の特性	樹の特性	栽培上の注意事項	収穫期
つがる	青森県黒石市 青森県りんご試験場(現青森県産業技術センターりんご研究所)育成 ゴールデン・デリシャス×不明(昭和5年交配) 昭和50年 命名登録	果形は長円形、地色は黄緑色で、紅色の太い縦縞が入り、その上が薄く着色する。果実は大きく320g位で、果肉は黄白色でち密。果汁多く、糖度は15度位で微酸、豊産性で食味良好。	若木時代は樹勢強く、樹齢が進むにつれ、落ちつき、開張する。結果枝は、長果枝が多く芽がとび、結果部のはげ上がりを起こしやすい。結果年齢に達するのが早く、豊産性、隔年結果がややあり、収穫前落果が多い。	着色が不良なため、気温格差の大きいところや、着色期に比較的冷涼なところが良い。又、結実部に充分日光が入るよう枝の配置をする。若木の間は、間引きせん定を主体に軽いせん定を行い、樹勢がおちついたら適宜切返しを入れる。	8月下旬～ 9月上旬
未希ライフ	青森県弘前市 工藤清一氏 千秋×つがる 平成4年 品種登録	果径は円形で、果色は褐紅色から鮮紅色であり、大きさは270g程度である。果肉はやや硬く、肉質は粗雑で果汁は多い。貯蔵は室温で20日程度である。	樹勢は若木のときは強く、苗木、高接ぎともに3年以上の枝からは直角に伸びる強勢な枝が出やすい。しかし、結実後は年数を経るにつれて、枝が開張性から下垂性となり、樹勢が低下する。結実以後は生産力は中程度で、玉揃いは良好である。樹勢が強くても障害果はみられない。斑点落葉病には抵抗性。	年によって収穫前落果がみられる。収穫は着色、地色を目安に2～3回に分けて行う。結実後に樹勢が低下したら、樹勢回復のために、直角に伸びる強勢な枝を利用する。	9月上旬 (育成地)
シナノスイート	長野県須坂市 長野県果樹試験場 ふじ×つがる(昭和53年交配) 平成5年 品種登録	果実の大きさは300～400gと大きく、円形で表皮は綺麗に赤く染まり濃赤色の縦じまが入る。	樹姿は中間、樹の大きさ及び樹勢は中、枝梢の太さは細。短果枝の形成、花芽の着生良く、えき花芽の着生は少ない。自家結実性は低く、後期落果は早期、後期ともに少ない。	果実の着色に十分な光を必要とする品種のため、採光を考えた樹形づくりが重要。強い成り枝に成った果実は着色が劣るため、強せん定をさけ、樹を落ちせる。	9月中旬～ 10月上旬
秋映	長野県中野市 小田切健男氏 千秋×つがる 平成5年 品種登録	果実の大きさは300g前後、果形は円～円錐形、果皮の地色は黄緑色で果皮色は暗赤色である。着色が容易な品種で、成熟期には果実全面が着色し、縞は不明瞭となる。果点はさび状で大きい。糖度は14%、酸度は0.4%前後で、甘酸適和である。果肉はやや硬く、肉質はやや粗であるが、多汁で食味は良好である。果肉の粉質化程度は難で、貯蔵性は室温で2週間程度である。	樹勢は中位で、若木の生育は千秋に似る。枝梢の太さは中程度で、節間は短く、短果枝の着生は良好である。摘果が遅れると早期落果がみられ、若木では収穫前落果がみられる。コルクホット、ヒターピットの発生はともに少ない。	主要品種の多くと交雑和合である。若木時代は樹勢が強いため、充実した花芽が得にくい。そのため強せん定を避け、誘引により樹勢を落ち着かせる。着色が容易なため、玉回しが不要で省力的な品種である。しかし果柄が短く、葉陰による着色ムラがでやすいので、果実に密着した果そう葉は摘み取る。着色が先行するので、収穫期には注意する。	9月下旬～ 10月上旬 (育成地)

ジョナゴールド	米国ニューヨーク州立農業試験場 ゴールドデン・デリシャス×紅玉(1943年交配) 1968年 命名公表 1970年 秋田県が導入	果重は300~350g、果形は円形で、黄色の地に80%以上濃鮮紅色に着色し、玉ぞろい良く、豊産性である。 多汁・甘酸適和で食味は良好である。果面にワックスが出やすい。	枝の発生角度が広く、開張性で花芽がつきやすい。 そのため結果年齢が早く豊産である。 開花期はふじと同時期である。	三倍体品種のため、人工受粉が必要である。また花粉の稔性が低く、受粉樹としては利用できない。 ゴールドデンデリシャスとは交配不親和である。 日陰部の果実は着色不良となりやすいので注意する。 斑点落葉病には強い。	10月上旬
ゴールドデン・デリシャス	米国ウエストバージニア州で1914年に発見された偶発実生	果実は250~300g、果形は長円形で、黄色の地に陽光面は淡紅色に着色することもある。 さびの発生が多い。肉質はち密で食味は濃厚である。貯蔵性は劣る。	樹勢は強く開張性で早くから結実し、豊産性である。 開花期はふじと同時期である。	さびが発生しやすいので、落花後10~30日間の薬剤散布は注意する。	10月上旬
ふじ	茨城県つくば市農林水産省果樹試験場(現 農研機構果樹茶業研究部門)育成 国光×デリシャス(昭和14年交配) 昭和37年5月 命名登録	果形は円形~長円形、果色褐紅色で縞状に着色する。果実は300g前後で果肉は硬く粗いが、果汁多く、酸は少なく、甘味が強い。完熟すると蜜が発生しやすい。	樹勢は、強健でしだいに開張性となる。 枝の発生多く、短果枝・花芽の着生も良い。しかし、結実量が多くなると、枝は細くなり、花芽も小さく、隔年結果しやすくなる。	強酸性、重粘土壤、排水不良地では粗皮病が発生しやすい。 樹冠上部の枝と下部の枝のバランスがくずれやすい。上位の枝は強くなるので弱めにせん定し、下部の枝は強めに切り返す。 着色に難があるので、樹間内部まで光が入るように樹形をととのえ、徒長枝の除去、葉摘み、玉廻し等の作業が重要である。	10月上旬~ 11月上旬
王林	福島県桑折町大槻只之助氏 ゴールドデン・デリシャスとインドの混植園にゴールドデンの種子を播いて育成したもの。 昭和27年 命名。	果実は250~300gで中の大、果形は長円形で卵形に近い。果実は黄緑色であるが、果面に細かいひび割れが入って外観は良くない。糖度は15%、酸度は0.35%程度で食味は良好である。貯蔵性は比較的高い方である。	樹勢は中位であるが若木のうちは直立する。樹齢が進むと開張性になる。結実開始が早く豊産性である。枝条の節間は短く腋花芽の着生は多い。また、枝条は硬く折れやすい。	苗木は直立性を示すので、枝を開かせないように注意する。花器は霜害に弱いので注意する。 樹勢が強すぎるとビターピットが発生するので強せん定と多肥は避ける。	10月中旬
陽光	群馬県伊勢崎市群馬県園芸試験場北部試験地(現 群馬県農業技術センター中山間地園芸研究センター) ゴールドデンデリシャス自然交雑実生(昭和37年播種) 昭和56年 品種登録	果実の果形は長円で、大きさは300~350g。果皮の地色は明黄色、着色は初期果面に縞模様が現れ、次第に果面全体が鮮紅職色となり、着色が進むと光沢のある濃紅色となり縞が目立たなくなる。果肉の色は白色で果肉はやや硬く、肉質はやや粗で酸味は中、甘味多、果実の日持ちは良好。	樹姿は開帳性で樹の大きさ、樹勢、新梢の太さは中、短花枝の着生は中、えき花芽の着生は少、花粉は多く、自家結実性は高、早期落果、後期落果は少ない。	果面にサビが発生しやすい。病害抵抗性は心かびの発生がなし~僅か、斑点落葉病、うどんこ病には強い。その他の病害には中、虫害抵抗性は中。	10月中旬~ 下旬

新 世 界	群馬県農業総合試験場北部分場(現 群馬県農業技術センター中山間地園芸研究センター) ふじ×あかぎ(昭和46交配) 昭和63年 品種登録	果実の大きさは300～350gで、果形は偏円形、樹勢が強いうちは斜形果が目立つ。果実は縞状鮮紅色に着色し、温暖地でも着色はきわめて良好である。果面障害や心かびの発生は少ない。果肉の色は黄白色で、肉質はやや粗く、蜜が入り、糖度は14%程度、酸度は0.3%前後と甘い。芳香があり食味は良好であるが、未熟な果実は渋みが強い。渋みの有無や強弱は年次間差、個体差、地域差もみられる。貯蔵性はよく、普通貯蔵で30日以上、冷蔵貯蔵で150日程度である。	樹勢は中程度で、やや直立性である。短果枝の着生は多く、結果樹齢に達するのが早い。自家和合性も比較的高く、早期・後期の生理落果は少ない。病害虫では特に目立ったものはみられず、斑点落葉病、うどんこ病に対して抵抗性を示す。	主要品種との交雑和合性は高いが、「ぐんま名月」「秋映」とは不和合性を示す。直立性であるため、若木では誘引、捻枝の作業が必須となる。徒長枝は早めに除去し、良品生産に大切な中果枝の着生を促す必要がある。強樹勢、収穫期の多雨条件などで、つる割れが多発生しやすい。適正な樹勢を維持するとともに、中果枝を主体に着果させる。	10月下旬 (育成地)
ぐんま名月	群馬県農業総合試験場北部分場(現 群馬県農業技術センター中山間地園芸研究センター) あかぎ×ふじ(昭和46交配) 平成3年 品種登録	果実の大きさは300～350gで、果形は円錐形である。黄色品種であるが、陽光面は淡紅色を帯びる。果肉の色は黄白色、肉質は中位であるが、蜜が多く入り、糖度は15%前後、酸度は0.2%程度と甘みが強い。芳香があり、食味は良好である。果面障害や心かびの発生は少ない。貯蔵性はよく、普通貯蔵で30日、冷蔵貯蔵で150日程度である。	樹勢は中位、樹姿は直立と開張の中間型で、短果枝の着生が多くスパークタイプの生育を示す。結果樹齢に達するのは早く、豊産性で隔年結果も少ない。早期・後期の落果は少ない。病害虫では特に目立ったものはみられず、斑点落葉病やうどんこ病に対して耐病性である。花粉量が多いため授粉樹としても活用できる。	主要品種との交雑和合性は高いが、「新世界」「秋映」とは不和合性を示す。豊産性であるため、小玉になりやすい。そのため、切り返しせん定と適正着果に努める。また果皮が薄く押し傷が起きやすいので、収穫はていねいに行う。過熟果や長期貯蔵果では果心部に褐変症状が出ることもあるので、適期収穫を心がける。	10月下旬 (育成地)